

## イボダイ幼魚の採捕

イボダイ（地方名：エボダイ）は日本周辺に生息するイボダイ科の魚で、干物などでおなじみの魚です（図1）。このイボダイが、9月20日に行った羽田空港周辺海域での桁網調査で採捕されました。今回採捕されたイボダイは、全長3.8cm、体重1.1gの小さな幼魚です（図2）。イボダイの幼魚はクラゲと共に移動することが知られており、今回の調査時にも調査海域で浮遊するクラゲ類が多くみられたことから、これらのクラゲと共に東京湾奥に来遊したのではないかと考えられます。



図1 スーパーで売られていたイボダイ

当日の調査に協力していただいた芝漁業協同組合の丸裕二さんによると、かつては東京湾奥でも底引き網でイボダイがかなり漁獲されていたそうです。当協会の調査でも2018年に4例（全長17.6～18.8cm）の採捕記録がありましたが、今回のような幼魚の採捕は初めてでした。

今年は、ムラクモキジビキガイやサクラマス、ウスメバルなど希少な貝や魚が採捕されたり、当協会が造成している空港浅場のアマモ場周辺では自生アマモの繁茂が確認されるなど、うれしいニュースが続いています。



図2 採捕されたイボダイ（全長3.8cm、体重1.1g）  
（2023年9月20日 多摩川河口（桁網）で採捕）



図3 採捕地点（多摩川河口）